

レ ス ス ン プ ラ ン

1 学年 第 2 回 (自国理解)

テーマ：「似てるね！歌やお話」



授業の目標：

- (1) 日本の文化について考え、ALTに日本文化を伝えてあげる
- (2) 異なった文化であっても、文化的に共通点も多いことに気づく

用意するもの：

ALT

担当教師

- お話(家を建てた羊さんと豚さんのお話)
- パネルシアターに必要なもの

- 事前に子供達をグループ分けし、各グループが童話「ももたろう」の話の一部を発表できるようにしておく。可能なら絵も描いてもらう
- 事前に「しあわせなら手をたたこう」を練習しておく

時間	活 動	気づいた点
5分	ALTと担当教師はあいさつし、その後、まず、みんなで「しあわせなら手をたたこう」の日本語版を歌う	
8分	担当教師が指示を出し、子ども達はALTに「ももたろう」の話を説明する。各グループは教室の前に出て、事前に描いていた絵などを用いて、担当部分を発表する。	
15分	ALTは「ももたろう」について簡単にコメントする。ALTと担当教師は、「家を建てた羊さんと豚さんのお話」（日本語のみ）を、順番に読みながらパネルシアター形式で伝える。子供達はパネルを見て、話を聞く。	
2分	担当教師は、子ども達に二つの話の共通点(登場人物や話の展開等について)について考えさせる。	
5分	ALTは授業の始めに歌った歌は、実は英語版もあることを説明し、歌って聞かせる。子どもたちはふりを真似ながら歌に加わる。	
8分	ALTは「あひるとがちょう」のゲームを説明する。担当教師はゲームの前に、日本でも同じようなゲームがあるかどうか子どもたちに尋ねる。(子どもたちはハンカチ落としと似ていることに気づく)	
2分	担当教師は、自分たちが知っている歌やお話の中には、外国にも似たものがあることを説明し、どうしてそのようなことがあるのか子どもたちに尋ねる。その後、例え話す言葉や服装が違ってても私たちは同じ人間で毎日の生活の中で同じようなことを感じたり体験しているということを確認して授業をまとめる。	

※注あり

注)

- ※ 本課では、白い大きな折り畳みのパネルが使用されるが、持ち運びが困難である場合は、黒板にマグネットで貼り付けるタイプの、小さく折りたためる白いフェルトの布を使用することもできる。
- ※ お話は「パネルシアター」でALTと分担しながら進めるので、実際には台本を見ながら読み進めればよいが、絵(キャラクター)を動かす作業が多少伴うため読みはしっかり準備したい。
- ※ 「ももたろう」のお話では、子どもたちに絵を準備させることが難しい場合、子どもたちが一文ずつ交代で読むか、あるいはグループで章ごと担当して読む形でもよい。
- ※ 歌を歌うときには、「もう一回」「もっと早く」「もっと早くもう一回」など、歌を何度も歌ってもよい。もし教室にキーボードがあれば、ぜひ伴奏をお願いしたい。